B-31 stereotactic radiosurgery による不整形照射野の線量分布

目的 stereotactic radiosurgery（以下 RS）による不整形頭蓋内小病変の治療は照射野が球形を呈するため、病変を十分に含むためには照射野を大きく設定する必要があり、病変周辺の正常組織への影響が問題となっていた。そこで病変内に isocenter を数箇所設定することで病変の形状に近い照射野が得られると考え、不整形照射野の線量分布について検討を行った。

方法 頭部ランドファントムに仮想病巣を設定し CT シミュレーションを行いコンピュータを線量測定を行った（計算値）。次に仮想病巣面にフィルムをおき照射を行い、フィルムの黒化度を測定することで線量分布を求めた（実測値）。

結果 実験では計算値と実測値はよく一致していた。

結論 isocenter を数箇所設定することにより比較的良好な線量分布が得られた。RS は不整形病変の治療にも応用可能であると考える。

B-32 重篤な経過をたどった深頭部腫瘍の 1 症例

目的 深頭部癌症症は、抗癌生物質の発達した現在でも死に至る可能性を持つ疾患であり正確な診断に基づき、適切な治療を行うことが重要である。今回我々が経験した重篤な経過をたどった深頭部癌症症の 1 症例を報告する。

症例 46歳男性。咽頭痛、呼吸困難を主訴に来院。頭部全周にて発赤腫脹を認める、咽頭の発赤、口腔底の腫脹を認めた。CT にて左侧より右側を越えた腫瘍を認める舌骨より下方へ拡がり一部上頸頂にも腫瘍の形成を認めた。喉頭全体性下咽頭にて 1 回目の頭部腫瘍治療を施行した。術後は TCC：Trauma & Critical Center にて全身管理し創部の洗浄を連日施行したが、改善のないため 2 回目の頭部腫瘍治療を施行した。創部は開放のままガーゼにてドレナージをした。同時に抗癌生物質を投与し、全身状態の改善が認められ創部からの膿性分泌物が無くなった時点で創部の閉鎖を施行し、無事退院の運びとなった。

今までは当科を受診した深頭部腫瘍の症例に共通する点は、発症後の無治療、不適切な抗癌生物質の投与、必要な手術的治療の遅れがあげられる。今回の症例は重症であったにもかかわらず、救命したのは、TCC にて全身管理を受けたことが重要であり、酵母・腫瘍の適切な投与と切開排膿が原則である。CT にて腫瘍の扩張を確認し、保存的治療で、外科的治療の適応かを迅速に判断することが大切である。

B-33 木村氏病の 1 例

目的 木村氏病は青少年から壮年の男性に好発する皮下軟部組織の腫瘍である。病巣は、TCC：Trauma & Critical Center にて全身管理と創部の洗浄を連日施行したが、改善のないため 2 回目の頭部腫瘍開放を施行した。創部は開放のままガーゼにてドレナージをした。同時に抗癌生物質を投与し、全身状態の改善が認められ創部からの膿性分泌物が無くなった時点で創部の閉鎖を施行し、無事退院の運びとなった。

今までは当科を受診した深頭部腫瘍の症例に共通する点は、発症後の無治療、不適切な抗癌生物質の投与、必要な手術的治療の遅れがあげられる。今回の症例は重症であったにもかかわらず、救命したのは、TCC にて全身管理を受けたことが重要であり、酵母・腫瘍の適切な投与と切開排膿が原則である。CT にて腫瘍の拡張を確認し、保存的治療で、外科的治療の適応かを迅速に判断することが大切である。